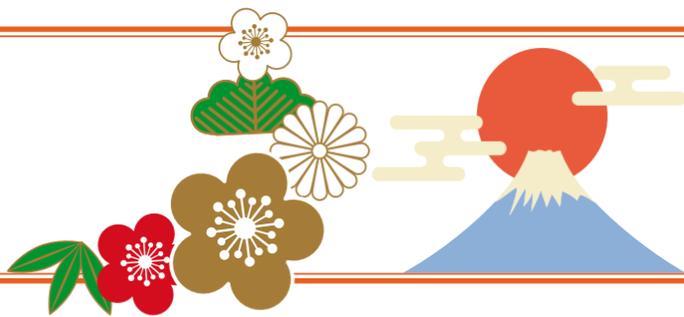


# まち あびこ



星野順一郎市長



田嶋幸三会長

## 夢をもつと夢があるから強くなる

今年、多くの方に夢を与える「2018 FIFAワールドカップロシア大会」が開催されます。公財日本サッカー協会（JFA）の田嶋幸三会長は我孫子市にゆかりがあり、また、市では「JFAこころのプロジェクト」『夢の教室』を行っています。今回は、「我孫子のまち」そして、「夢」について伺いました。

あびこには  
子育てしやすい  
環境がある

星野順一郎市長（以下、市長） ワールドカップ（以下、W杯）出場おめでとうございます。私は、スポーツなどで頑張っている子どもを応援しています。特にチームワークで行うスポーツは、良い経験ができ、大きな成長に繋がります。田嶋幸三会長（以下、会長） 私の子どもは、今もサッカーを続けています。小学校に入る前から体を動かす喜びや楽しさを感じた子どもは、将来にわたりスポーツを続けます。我孫子に住んでいる時は、よく手賀沼に遊びに行っていました。自然があり自由に遊べる場所、そして、それを守る多くの人がいる環境が、我孫子にはあると思います。子どもたちにとって一番良い時期を我孫子で暮らすことができました。



市長 少子高齢化の波を受け、5年連続で出生数が1000人を下回っていますが、今でも手賀沼周辺では、子どもが元気に自然の中で遊ぶ姿をみることができ、今年で待機児童ゼロを32年継続しています。会長 実は我孫子市を選んだ理由は保育園に入園できることでした。暮らしてみると、伝統的なお祭りが受け継がれている。また、保育園では散歩しながら武者小路実篤邸や志賀直哉邸を教え、子どもが覚えて帰ってくる。伝統や文化が深く根付いているまちだと感じました。市長 そのような話が聞けることはとても嬉しく思います。子育てしやすく、歴史、文化、そして自然がある、とても住みやすいまちだと自信を持っています。会長 我孫子は子育てしやすく、伝統や文化、自然があり、近くに商業地域もあるパークエクトなまちだと思います。私の友人の多くは常磐線沿いに住んでいます。

どんな夢でもいい  
夢は力になる

市長 昨年のU-17W杯インド大会では、我孫子市在住の中村敬斗選手が日本男子初のハットトリックを達成するなど、大活躍しました。彼は夢の実現に向けて努力し頑張っていると感じています。会長 中村選手は信念がしっかりとっていて、明確な目標を持って選んでます。夢を持つことはとても大切です。どんな夢でもいい。スポーツだとか「オリンピック」や「ワールドカップ」といった夢を持ちやすいのですが、数学が好き、社会が好き、英語が好きだという子どもたちも自分の夢を持って、勉強していくことは大切です。夢を持ち、実現に向けて努力することの大切さ、失敗や挫折に負けない心の強さを子どもたちに伝えるため、「JFA

### 田嶋幸三会長プロフィール

熊本県出身。元日本サッカーリーグ（Jリーグの前身）選手、元サッカー日本代表。  
平成23年からアジアサッカー連盟（AFC）理事、27年から国際サッカー連盟（FIFA）理事、28年から公財日本サッカー協会（JFA）会長を務めている。  
平成8年から15年まで、子育て時期の約8年間を我孫子市で過ごす。

こころのプロジェクト「夢の教室」(※)を展開しています。我孫子市でも取り入れていただいていることに、とても感謝しています。市長 私も子どもたちに夢を持ち頑張っていくことを伝えることは大切だと思います。平成28年度から「夢の教室」を取り入れ、既に6校で実施しています。トップアスリートの夢先生から、夢に向かい努力することや、仲間と協力することの大切さを、体験談を通して分かりやすく教わることは、とても貴重な機会です。私は、子どもたちには地元出身で活躍する先輩たちの話をしています。夢を身近に感じ、「自分も頑張ればそこに行けるんだ」というきっかけを作る。夢に向かうことで、子どもたちは

※JFAこころのプロジェクト「夢の教室」…（公財）日本サッカー協会が学校教育の現場と力を合わせて、子どもの心の教育に貢献していくプロジェクト。現役・OB・OGのスポーツ選手を「夢先生」として学校へ派遣し、「夢を持つことや夢に向かって努力することの大切さ」などを伝えています。対象は小学5年生と中学2年生。我孫子市では平成28年度から取り入れています。